

令和5年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤として、高い知識と豊かな心、たくましさを身につけ、地域社会や国家、世界に広く目を向けた人間を育成する。

(2) 目指す生徒像

- ① 自ら学ぶ生徒 ② 心豊かな生徒 ③ たくましい生徒 ④ 視野の広い生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「あたたかい学校・活力のある学校・人の集まる学校」

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) あたたかい学校

- ・心の教育、望ましい人間関係づくりを図る
- ・学びやすく、生活しやすい環境を整備する
- ・花と緑を大切に潤いある環境を整備する
- ・教職員の資質向上と健康管理に努める

(2) 活力のある学校

- ・学業指導の充実に努める
- ・積極的な生徒指導を推進する
- ・特別支援教育の視点を十分に生かす
- ・体力・気力の向上と健康教育を推進する

(3) 人の集まる学校

- ・生徒が楽しいと感じる学校づくりに努める
- ・地域の人材、資源を活用した教育を推進する
- ・職員が働き甲斐のある職場づくりに努める
- ・地域活動や災害時避難場所としての機能の充実

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

Society 5.0時代において、子どもたちが地域や国家・世界とのつながりの中で生活していることを自覚し、広い視野で物事を見て、考え、判断し、行動しようとする意欲と態度をもてるよう、教育課程と指導体制を工夫する。

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領の関係法令、及び県教育行政基本方針、市教育委員会管理運営規則、市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- (2) 地域や学校の実態を踏まえ、生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら、人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- (3) 小中一貫教育、GIGAスクール、宇都宮学の趣旨を生かし、学校教育全般にわたる教育活動の充実を目指して適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ～教育目標の達成を目指すチーム若中づくり～

- ・生徒や家庭、地域、関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念、諸活動の目的を共有することで、それぞれの立場で育てたい生徒像を明確にし、その具現化を目指し、達成しようとする集団づくりの推進に努める。
- 教職員一人一人の特性を生かした校務分掌を工夫や協働性を高め、働き甲斐を大切にすることで、業務の効率と働き方改革を進める。
- ・学校の公開や情報発信を積極的に行い、地域とのかかわりを深める工夫をすることで、地域の中核として愛される、開かれた学校づくりの推進に努める。

(2) 学習指導 ～子どもが意欲的に取り組む授業、学びに向かう集団づくり～

- ICT機器の利点を生かし、効果的に活用することで、授業改善を図り、主体的、対話的で深い学びを実現する。
- ・指導に生かす評価と追究意欲を高める課題を提示することで、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・家庭学習の習慣化と質の向上を目指し、一人一人に適した学びと授業を連携させることで学力の定着を図る。

(3) 児童生徒指導 ～ともに成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～

- ともに課題に挑戦し、互いに認め励まし、称え合う指導を推進することで、自他共に成長できる集団づくりに努める。
- 生徒が考え、実践し、決定させる機会を与えることで、自ら考え判断し、責任を持って実行できる自己指導能力の育成、向上を図る。
- 自己理解を深めさせるとともに、自己効力感や自己有用感を高めさせることで、困難を克服し失敗から立ち上がる力(レジリエンス)の育成に努める。
- 生徒理解に努め生徒の発達課題に応じた指導を展開し、生徒との良好な人間関係づくりを行うことで、自己肯定感、自己有用感をはぐくむ教育相談に努める。

(4) 健康・体力・保健安全 ～強い体、折れない心、健康的な生活を目指して～

- 体力向上のための補強運動の実施と外遊びの強化をすることで、基礎体力の向上と、粘り強く取り組む意欲を養う。
- 個に応じた健康診断の事後指導や食育を行うことで、自他の生命や心の健康を大切にし、安全で豊かな生活への意識を高める。
- 防災教育を充実し、危機に対応できる能力の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目A1の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りにおいて, 「主体的に学習に取り組む態度」の自己評価の場面を設定することで, 主体的な取組を促す。 ・ICT機器を積極的に活用することで, 個別最適化を図るとともに, 主体的な学びを実現するための授業改善を進める。 ・学習の計画や見通しを立てさせ, 家庭学習に進んで取り組ませる。 ・教職員が連携を図ることで, 主体的に取り組むことができる授業構想づくりに努める。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は86.1%で, 数値指標を上回っている。 ・教職員が88.9%, 保護者が84.5%であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に活用し, 個別最適化を図るとともに, 主体的な学びを実現するための授業改善を進める。 ・授業での学習を家庭学習に繋げられるように見通しを立てて計画し, 実践できるようにする。 ・教職員が連携を図ることで, 学習内容や評価を統一させ, 主体的に取り組むことができる授業づくりに努める。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 生徒は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A2の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園の道徳教育において思いやりを重点項目として積極的に推進し, 互いを思いやる心を育む。 ・黄ブナ作りや塚山清掃活動などを通して, 地域貢献, 思いやりの心を育む。 ・福祉教育の充実を図り, 障がいをもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。 ・「若中プライド賞」を活用して, 思いやりをもって自ら主体的に行動できる生徒の育成を図る。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は91.9%で, 数値指標を上回っている。 ・教職員が91.7%と昨年度を7.5ポイント伸びたが, 保護者は90.4%で4.1ポイント下回った。地域住民は100%であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園道徳教育の重点項目として, 互いを思いやる心を育む。 ・被災地への募金や黄ブナ作り, 塚山清掃活動などを通して, 地域貢献, 思いやりの心を育む。 ・障がいをもった方との関わりを通して, 福祉への理解を深める。 ・「若中プライド賞」を通して, 思いやりの育成を図る。

	<p>A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目A3の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートやキャリア教育アンケート等を活用し、地域学校園で9年間のキャリア教育の充実を図る。 ・宮チャレやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。 ・若中プライド賞を活用して、クラスや学年において、個人の努力や頑張りを賞賛することで、認め励まし合う雰囲気づくりを行う。 ・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。 ・生徒が見通しをもち、余裕をもって諸活動に取り組むことができるよう、教職員の連携を十分に行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は87.1%で、数値指標を上回っている。 ・教職員は88.9%と昨年度を12.6ポイント上回ったが、保護者の肯定的回答が82.3%と昨年度を6.7ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用し、9年間のキャリア教育の充実を図る。 ・目指す生徒像を明確にして、自己評価や相互評価を行いながら、PDCAサイクルにのせ達成度を確認し、取組の改善を図っていく。 ・宮っ子チャレンジやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。 ・様々な分野の活動が入り組み、余裕をもって諸活動に取り組めていないため、十分に評価できていない可能性がある。見通しをもって活動に取り組めるよう、教職員の連携を図り、情報共有に努める。
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 評価項目A4の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行いながらも、生徒が基礎体力の向上に取り組めるよう、体育の授業や部活動で過密状態にならないよう運動量を確保する。 ・感染症対策の変更点等について随時確認し、感染拡大を予防するために、保健だよりや生徒保健体育委員会の活動等を通して、保健教育の充実を図る。 ・お弁当の日では、地域学校園で連携を図りながら実施方法を検討し、充実感を得られる食育を推進する。 ・避難訓練、各安全教室、集団下校や保護者への引き渡し確認などを通して、自然災害や不審者に対する対応等の知識を深め、危機対応能力の育成を図る。 ・交通安全教室を通して、身の回りの交通環境の理解や安全意識を高めることで、交通安全指導の充実を図り、危機対応能力の育成を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は90.8%と、数値指標を上回っている。 ・地域住民の肯定的回答は100%であった。教職員は86.1%で昨年度を3.4ポイント、保護者は88.0%で昨年度を6.8ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎体力向上のために、授業における補強運動や縄跳び検定などの各種検定を実施し、運動に親しみながら運動量を確保できるようにする。 ・宮っ子ダイアリーの「元気っ子生活習慣チェック」を活用し、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・生徒保健体育委員会中心に給食後の歯みがきを実施し、健康の保持増進を図る。 ・お弁当の日では、地域学校園で連携を図りながら実施方法を検討し、充実感を得られる食育を推進する。 ・避難訓練、各安全教室などを通して、自然災害や不審者に対する対応等の知識を深め、危機対応能力の育成を図る。 ・交通安全教室を通して、身の回りの交通環境の理解や安全意識を高めることで、交通安全指導の充実を図り、危機対応能力の育成を図る。

<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A5の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生徒指導目標に対しての目標達成シートを活用して、月ごとに目標をたて、スモールステップでの成長の場を設定する。 ・若中プライド賞を活用して、クラスや学年において、個人の努力や頑張りを賞賛することで、認め励まし合う雰囲気づくりを行う。 ・学級活動や生徒会活動、学校行事の事後指導において、自己評価と相互評価の両面からの実践を工夫することで、生徒や集団が成長を実感できるよう振り返りの充実を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は88.0%で、数値指標を上回っている。 ・教職員の肯定的回答が86.1%であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は学習や部活動、学校行事に目標をもって熱心に取り組んでいる。さらに、互いに切磋琢磨しながら成長していけるような場の設定を工夫し、認め励まし合う雰囲気づくりを行う。
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A6の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業を英語で実施する。場面設定をしたうえで、生徒同士やALT、教員との対話活動の機会を増やす。状況に応じた会話活動になるよう工夫改善を図っていく。 ○身近な場面で使える会話例を指導しながら使う場面を増やすことで、小中で連携し英語のコミュニケーションスキルを習得させる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は75.8%で、数値指標を4.2ポイント下回っており、昨年度を12.4ポイント下回った。 ・教職員の肯定的回答は94.4%と昨年度を4.9ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業以外でもALTと交流を図れる活動（今年度実施した英語の絵本の読み聞かせや英会話、ゲームなど）を継続し、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲を高める。 ・授業の帯活動としてsmall talkを継続し、自信をもって話したいことを発信し、英語で会話を続ける力を養う。
	<p>A7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A7の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や総合的な学習の時間を通して、郷土宇都宮について学び、自ら課題を設定し追究して主体的に学習に取り組む態度を養う。 ・教職員自身が宇都宮市の良さを学ぶとともに、総合的な学習の時間の「宇都宮学」の充実を図るために、各学年の年間指導計画の見直しを行い、宇都宮の未来を考えたり、魅力を表現したりできるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は80.2%で、ほぼ同様数値目標をわずかに上回った。ほぼ昨年度同様の結果である。保護者の肯定的回答は73.7%と昨年度を4.1ポイント上回ったが、教職員は80.6%で、昨年度を1.0ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮について取得した知識を活用して、宇都宮の未来について考えたり、魅力を表現したりすることで、宮っ子としての誇りをもてる心を養う。 ・「宇都宮学」の年間指導計画の見直しを行うとともに、追究学習の学びにおける工夫改善を図り、宇都宮への愛情と誇りがもてるよう育成する。

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 評価項目A8の 教職員の肯定的回答が 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において生徒が端末を活用し やすい環境を整備する。 ・各教科・領域の年間指導計画のも と、ICT機器や図書を利用した学習 活動を取り入れる。 ・端末使用のルールを徹底できるよ う、生徒指導と協力し、生徒、教員に 周知する。 ・図書館司書と連携し、図書室を利用 した学習活動のモデルや授業で活用 できる図書を紹介し、図書の利用を促 す。 ・教職員の推薦による購入図書を拡 充するなど、より実態に沿った購入計 画を立てる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は91.7%で、数値 指標を上回った。しかし、昨年度を8.3 ポイント下回った。 保護者の肯定的回答が73.0%で昨年 度をわずかに下回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールタクトやAIドリル等で課 題を出したり、意見を共有させる場を設 けたりするなど、授業において生徒が端 末を活用しやすい環境を整備する。 ・各教科・領域の年間指導計画のもと、 ICT機器や図書を利用した学習活動 を取り入れる。 ・端末使用のルールを徹底できるよ う、生徒指導と協力し、生徒、教員に周知す る。 ・図書館司書と連携し、図書室を利用し た学習活動のモデルや授業で活用でき る図書を紹介し、図書の利用を促す。
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 評価項目A9の 教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を中心に、社会 科、国語科、理科、保健体育科、技術・ 家庭科などの教科学習においても「持 続可能な社会」について年間指導計画 に明示する。 ・校内の掲示コーナーに環境問題を 啓発するようなポスターやチラシを 貼るなどして、生徒の関心が高まる環 境をつくる。 ・SDGsの内容を生徒一人一人が理解 し、自分がどのように行動して生きて いくべきなのかを深く考えるきっか けをつくる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は75.0%で、数値 目標を5ポイント下回った。昨年度より は1.3ポイント上昇した。 生徒の肯定的回答は75.4%であ った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、総合的な学習の時 間を中心に各教科で「持続可能な社会」 について年間指導計画に明示し、考え、 議論させたり実感させたりする機会を つくり、実行する。 ・校内にSDGs専用の特設コーナーを設 け、生徒会や各専門員会で取り組んでい る活動を紹介するなどし、全校生徒が協 力して課題解決に向けて率先して取り 組めるよう工夫する。
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 評価項目A10の 教職員の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を充実させ、生徒一人一人 の困り感の把握に努める。 ・教育相談部会に特別支援学級担当 を加えて、月1回程度、特別な支援を 要する生徒について共通理解を図り、 組織力を生かした適切な対策を話し 合う。 ・国際理解や異文化理解の教育の推 進を図り、異なる習慣や文化、さまざ まな考え方をもった生徒へ理解を示 す態度を育てる。 ○地域学校園内や他区から転入学し てくる外国人生徒の情報を迅速に集 め、登校初日から生徒の実態に応じた 配慮を行うことができるような校内 体制を構築する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は100%であり、数 値指標を大きく上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年会や校内支援委員会、教育相談部 会などを活用して、情報共有を徹底する とともに、組織力を生かした対策を立て て実践する。特別支援学級担当を教育相 談部会のメンバーに加え、月1回程度特 別な支援を必要とする生徒について話 し合う機会を継続して設ける。 ・外国人生徒だけでなく、「地域学校園 内や地区から転入学してくる特別な支 援を必要とする生徒（外国人生徒を含 む）」に関しては、情報を迅速に集め、 登校初日から生徒の実態に応じた配慮 を行うことができるような行内体制を 構築する。

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 評価項目 A11 の生徒の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の校内巡回や宮っ子ダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用して、生徒の様子を把握し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・全校生徒によるいじめゼロ標語の作成やリボンの掲示・全校集会等を行い、いじめが許されない行為であるという意識を学校全体で共有していく。 ・学校のいじめ対策について、保護者会や生徒指導通信などの各種たより、ホームページ、さくら連絡網などあらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 95.6%で、数値指標を上回っている。 ・教職員の肯定的回答は 100%であった。保護者、地域住民の肯定的回答はそれぞれ 81.2%、83.3%と、ともに 80%以上であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き年 5 回のアンケートや、教育相談等で生徒の様子を把握に努める。 ・全校生徒によるいじめゼロ標語の作成やリボンの掲示・放送集会等を行い、いじめが許されない行為であるという意識が学校全体で共有することができた。来年度も年に複数回全校集会を実施したい。 ・学校での取組状況を、各種たよりやホームページによる周知だけでなく、保護者や地域に効果的に発信する。 ・地域未来会議において地域住民と中学生がいじめ問題について語り合う機会をもつように計画する。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 評価項目 A12 の生徒の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動において意図的に相互評価や賞賛の場を設けることで、生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。 ・1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問を原則とし、行き渋り等の早期対応を図る。 ・学年会や教育相談部会を活用して、行き渋りが見られた場合の早期対応策について検討し、共有する。 ・学級での活動において意図的に相互評価や賞賛の場を設けることで、生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。 ・教育相談部会で共通理解を図り、SURやかがやきルーム等の別室の支援の充実を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 91.78%であり、数値指標を上回ったが、昨年度を 3.1 ポイント下回った。 ・教職員の肯定的回答が 100%であった。保護者の肯定的回答は 90.5%と昨年度を 1.1 ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若中プライド賞では、教員が生徒の善行を表彰し、学校全体で認め励まし合う雰囲気を醸成することができた。来年度は、生徒相互の認め合いなど工夫を加え、継続して実施していく。 ・不登校や別室登校になる前の対策や、行き渋りが見られた場合の早期対応策についてさらに検討し、共有する。 ・教育相談部会において、別室対応の生徒についての振り返りや目標設定を定期的実施する。 ・外部機関との連携をさらに強化し、様々な方法で支援できるようにする。
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居がいのある集団作りをめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 93.7%であり、数値指標を大きく上回っている。

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】 評価項目 A13 の生徒の肯定的回答が 85%以上</p>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践することで、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。 ・「若中プライド賞」として生徒の善行表彰を行い、生徒の達成感や自己肯定感を高める一助とする。 	<p>B</p> <p>教職員と地域住民の肯定的回答は100%であった。保護者の肯定的回答は89.3%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様に、クラスや学年ごとに互いを認め励まし合う雰囲気醸成に努め、生徒一人一人の自己肯定感を高める取組を行い、学級や学年間でも共有する。 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動や学校行事の充実を図り、達成感や充実感を味わわせるとともに、その様子をたよりや学校HPで保護者や地域住民に発信するよう努める。 ・生徒の善行が様々な場面で見られるようになってきたので、来年度も機会を捉えて「若中プライド賞」を継続し、生徒の善行の表彰を行い、生徒の達成感や自己肯定感を高めていく。
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A14 の教職員の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上研修の充実を図り、教職員一人一人が授業力向上を実感したり、ICT機器の効果的な使い方について共有したりできる研修を計画し、実施する。 ・習熟度別学習やTTなど指導形態を工夫し、生徒一人一人の困り感を把握することで、生徒の実態に合わせたきめ細やかな指導を行う。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は97.2%で数値指標を上回ったが、昨年度を2.8ポイント下回った。 生徒の肯定的評価も92.2%で、昨年度を2ポイント下回った。保護者の肯定的回答は84.0%であり、微増した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、授業のねらいを明確にし生徒の実態に応じて授業を展開していく。そのために教職員同士が互いに授業を見せ合い改善策を話し合ったり、授業スキルを共有したりする機会を設けていく。また、習熟度学習やTTなど授業形態の工夫を実施し、生徒一人一人のニーズに合わせ、子に応じた指導を実施していく。ICT機器を効果的に使うことで生徒の実態に合わせた指導をしていく。

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A15 の教職員の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ S C, M S, かがやき指導員, ステップアップルームとの連携を継続し, 全職員でのサポート体制を推進していく。 ・ 地域連携について, 地域未来塾や地域未来会議, 花壇ボランティア等の実践可能な活動を拡充してつながり感を高める取組を一層推進させていく。 ・ 各学年の協力体制を維持, 継続させ, その基盤の上に校務運営委員会や学年主任会, 学年会等の機能を活用しながら学年間の連携, 協力, 相談を推進していく。 ・ 個々の教職員に対し, 目配り, 気配り, 心配りしてサポートする体制づくりを推進し, 今年度以上に互いに個々の教職員へのサポートを推進する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の肯定的回答は 97.2%であり, 数値指標を 7.2 ポイント上回った。また, 昨年度を 7.7 ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ S C, M S, かがやき指導員, ステップアップルーム, 市教委, S S Wとの連携を継続し, 全職員でのサポート体制を推進していく。 ・ 地域や家庭と連携して, 地域未来塾や地域未来会議, 花壇ボランティアの整美, ビックリーン(地域清掃活動)等の実践可能な活動を拡充し, つながり感を高める取組を一層推進させていく。 ・ 個々の教職員へのサポート体制, 各学年の協力体制を維持, 継続させ, その基盤の上に校務運営委員会や学年主任会, 学年会等の機能を活用しながら学年間の連携, 協力, 相談を推進していく。 ・ 学校行事において, 教職員で一致団結して行う取組を発表する機会を設ける。
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して, 業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A16 の教職員の肯定的回答が 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークライフバランスの視点に立って, 働き方改革を教職員一人一人が考え, 判断して意識の向上を図る。 ・ P D C A サイクルに基づき, 引き続き行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。 ・ 部活動改革, 通知表の改訂, 採点システム導入等により一層業務の効率化を図っていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の肯定的回答は 77.8%であり, 数値指標を 7.2 ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き会議の効率化を進め, リフレッシュデーの推進に努める。 ・ 業務改善や働き方改革の本質を確認し, 教職員一人一人の意識改革を図る。 ・ 引き続き部活動改革, 通知表の改訂, 採点システム導入等により業務の効率化を図っていく。 ・ 保護者への啓発に力を入れ, 保護者の理解と協力を深めていく。
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は, 「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A17 の教職員の肯定的回答が 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9年間の連続した学びの充実, 学力向上に重点をあて推進計画や組織編成を見直す。教科部会を中心とした小中連携を図るようスリム化を図る。 ・ 生徒会を中心に行っている W G S あいさつ運動やボランティア活動での交流を, 校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。 ・ 生徒会朝会や校内放送等を利用して, 活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に積極的な情報の発信を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の肯定的回答は 94.4%であり, 数値指標をわずかに下回っている。 <p>保護者, 地域住民の肯定的回答がそれぞれ 80%, 85.7%と 80%を上回ったが, 生徒の肯定的回答は 80%に及ばなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育の取組を工夫し, 一部の生徒のみでなく, 多くの生徒が関わるように広げる。 ・ 小中一貫教育と日頃の教育活動との関連を図り, 活動のつながりを計画に位置付け, 意識を高める。 ・ 小中一貫教育で実践している活動の宣伝, P R, 啓発を推進する。
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p>	<p>A18 学校は, 家庭・地域・企業等と連携・協力して, 教育活動や学校運営の充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域未来塾を継続し, 地域の教育力を活用しながら家庭学習の充実へと 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の肯定的回答は 97.2%, 地域住

<p>5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>実を図っている。 【数値指標】 評価項目A18の 教職員と地域住民の肯定的回答が90%以上</p>	<p>つなぐ。 ・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに活用する体制を作る。 ・地域未来会議を継続して開催し、地域の実態やニーズに応じたテーマを設定して、地域協議会と生徒会の交流を促進する。 ・「働く人に学ぶ」や社会体験学習(宮っ子チャレンジ)において、地域や企業等との連携を図り、活動の充実を図る。 ・各種たよりを、原則としてさくら連絡網を活用して発信することで、保護者、地域住民へ最新情報を届ける。 ・ホームページの担当係や更新のシステムを見直し、こまめにホームページ更新に努めることで、地域への発信力を高めるとともに、学校教育に対する理解を深める。</p>	<p>民の肯定的回答が100%であり、両方も数値指標を上回っている。 保護者、生徒の肯定的回答が89.4%、76.7%と、ともに昨年度を上回った。 【次年度の方針】 ・地域未来会議を拡大し、参加メンバーを広げる。生徒は、生徒会執行部に加え、専門委員会委員長や学級委員長に広げ、地域協議会委員やPTAとの交流を促進する。 ・ビックリーン(地域清掃活動)やWGSあいさつ運動を地域協議会、家庭と連携して実践し、つながりと交流を深める。 ・「働く人に学ぶ」や社会体験学習(宮っ子チャレンジ)において、地域や企業等との連携を図り、活動の充実を図る。 ・さくら連絡網を活用して、保護者、地域住民へ最新情報を届ける。 ・ホームページの日々の記録や各種たよりをこまめに更新し、地域への発信力を高めるとともに、学校の教育活動に対する理解を深める。</p>
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 評価項目A19の 保護者と地域住民の肯定的回答がともに80%以上</p>	<p>・地域協議会等を活用し、地域住民の考える課題を明確にし、その改善も含めて毎月の安全点検や修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。 ・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・学校業務や学校環境整備作業員(機動班)との連携を密にする。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は91.3%、地域住民の肯定的回答が85.7%であり、ともに数値指標を上回っている。 教職員の肯定的回答は100%であった。 【次年度の方針】 ・地域協議会等を活用し、地域住民の考える課題を明確にし、その改善も含めて毎月の安全点検や修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。 ・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・学校業務や学校環境整備作業員(機動班)との連携を密にする。</p>
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。 【数値指標】 評価項目A20の 教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・情報担当者の責任のもと、ICT機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要なICT機器の整備を行い、管理と運用を工夫する。 ・教職員が手軽に利用しやすいよう、機器の保管場所や貸し出し方法の工夫・周知を行う。 ・端末を使用して授業が行いやすい環境を作るため、周辺機器の整備を行い、管理と運用を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は94.4%であり、数値指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き情報担当者により、ICT機器の一括管理および整備を行い、管理・運用を工夫する。 ・教職員が手軽に利用できるよう、保管場所の周知や貸出方法の工夫を行う。 ・授業しやすい環境を作るため、周辺機器の整備、管理・運用を工夫する。</p>

<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 評価項目B1の生徒の肯定的回答が90%以上</p>	<p>・生徒会や生活委員を中心に「礼節週間」を実施し、授業開始時に「語先後礼」の取組を行う。 ○「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域社会の一員であるという自覚をもたせる。 ・地域学校園と連携を図り、あいさつ運動の仕方に工夫を凝らしながら、地域との関わりを深める取組を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.5%で、数値指標を上回っている。 教職員の肯定的回答が91.7%であり、昨年度を15.4ポイントも上回った。地域住民の肯定的回答が100%であり、9.1ポイント上昇した。保護者の肯定的回答は86.7%であり、昨年度を3.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・「礼節週間」や「語先後礼」の取組を生徒に周知し、職員と全校生徒が目的意識をもって行動できるよう指導する。 ・「あいさつ運動」の取り組み方の工夫改善を図り、目指す生徒像を明確にして、生徒会執行部や生活委員だけでなく、全校生徒が主体的に取り組めるような方策を検討する。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 【数値指標】 評価項目B2の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<p>・毎月の生徒指導目標に対しての目標達成シートを記入させ、自分の行動を振り返らせることで、目標をもって行動ができるようにする。 ・学校内の様々な活動の中で、生徒自ら考え決定し、実践する機会を設け、自主的・自律的な態度の育成に努める。 ・各種たよりやホームページ、さくら連絡網などを活用して、学校の活動の様子をお知らせし、学校と家庭・地域が一体となって生徒を支援していく環境づくりを継続して整えていく。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.1%で、数値指標を大きく上回っている。 教職員の肯定的回答が94.4%であり、昨年度を4.9ポイント上昇した。保護者の肯定的回答は88.8%で、昨年度を5.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーについて「なぜ必要なのか」を考えさせ、TPOに応じた言動ができるように指導を継続するとともに、来年度は学校行事等を通して、生徒が考え、決定し、実践する機会を増やして、より一層自主的・自律的な態度の育成に努めたい。</p>
	<p>B3 教職員は、一人一台端末等のICTを活用して、学力向上に取り組んでいる。 【数値目標】 評価項目B3の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・今年度の成果を生かし、各教科におけるICT機器の活用の幅をさらに広げられるように、教員間での情報交換・研修を行う。 ・授業におけるより効果的な活用が行われるように、年間指導計画への位置づけを図る。 ・話し合い活動などの場面でスクールタクトを活用し、他の生徒と意見交換をするなどして、思考を深めることができるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は97.2%で、数値指標を大きく上回っている。 生徒の肯定的回答が89.8%、保護者の肯定的回答が85.7%と、80%以上であった。 【次年度の方針】 ・引き続き、各教科におけるICT機器活用についての教員間での情報交換・研修を行う。 ・各教科でICT機器活用の効果が期待できる内容や学習活動を検討し、年間指導計画の中に位置づけていく。</p>

<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B 4 教職員は、「鍛錬タイム(朝学)等」を活用して、授業と一人一人に適した家庭学習と連携した学習指導の充実に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 評価項目B 4の教職員の肯定的回数が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鍛錬タイムの実施を朝の読書の時間に位置づけ、より集中して行える環境を整える。 ・A Iドリルの取り組み状況を確認し、生徒にフィードバックすることで生徒自身が家庭学習について振り返ることができるよう支援する。 ・生徒のチャレンジノートへの取組を評価し、優れたノートを紹介したり、効果的な学習方法を示したりするなどして家庭学習の方法を身に付けることができるように支援する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は83.3%で、数値指標を上回った。 生徒の肯定的回答が70.2%、保護者の肯定的回答が77.2%と、70%台であった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍛錬タイムでの教科を指定し、学年に応じた学びの場になるよう支援する。 ・チャレンジノートの質の向上を目指し、ドリル学習にとどまらず、自らの興味・関心に応じた学習・研究等も推進するよう指導する。 ・家庭学習の仕方をガイダンスしたり、授業の内容を定着させるための課題を明示したりして、授業を家庭学習をつなぐ工夫を行い、学力向上を目指す。
	<p>B 5 教職員は、道徳科や学級活動の授業、学校行事等を通してよりよい人間関係づくりの促進に積極的に取り組み、情報発信している。</p> <p>【数値目標】 評価項目B 5の保護者の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科や学級活動の時間に意図的、計画的にソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターを位置づけ、よりよい人間関係を築こうとする力を身に付けさせる。 ・各種便りやホームページ等を活用したり、授業を公開したりすることで、学校の取組や授業の様子を情報発信するように努める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は89.1%であり、数値指標を上回った。 生徒の肯定的回答が87.8%、教職員、地域住民の肯定的回答はともに100%であった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様に道徳や学活の時間や朝の会や帰りの会を利用し、ソーシャルスキルやグループエンカウンターの時間を設け、よりよい人間関係を築こうとする力を身につける。 ・各学年の担当教諭が連携を図り、学年だよりや学級通信、学校HPを活用して定期的に学校の取組や授業の様子などを地域保護者に情報発信するように努める。
	<p>B 6 教職員は、学級活動や生徒会活動において、生徒が自己決定する機会を与え、生徒自身が決めた目標や活動への粘り強い取組を支援している。</p> <p>【数値目標】 評価項目B 6の保護者の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会朝会を各委員会と連携することで、生徒が中心となって、自己決定する場を設け、生徒が主体的に活動できるよう導く。 ・学校行事ごとに、目標設定と振り返りを行い、生徒自身が決めた目標に向かって粘り強く取り組む態度を身に付けさせる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は88.3%であり、数値指標を上回った。 生徒の肯定的回答が90.2%、教職員、肯定的回答が100%であった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続し、生徒会朝会での発表を各委員会に割り振り、生徒の自主性を育む。 ・各学校行事の事前指導を十分に行い、生徒の目標を明確にすることで、粘り強い取り組みができるよう支援を行う。

<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B7 生徒は、学校行事や部活動で目標をもって一生懸命活動し、困難な状況になってもあきらめることなく最後までやり遂げている。</p> <p>【数値目標】 評価項目B7の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を克服し、不安から立ち上がる力（レジリエンス）を育成するため、体育祭や文化祭などの学校行事と部活動で、ソーシャルスキルの習得を目指した生徒が主体的に活動できる場を設定する。 ・総合運動公園第2陸上競技場を活用した体育祭の実施を継続し、生徒が主体的に活動できる場を設定する。 ・体育祭や文化祭等の学校行事において互いを励まし、認め合う中で生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう支援する。 ・学校行事や部活動において、生徒に目標を立てさせ、スモールステップで小さな成功体験を積み重ねながら大きな目標に向かい努力するよう指導する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は92.4%であり、数値指標を大きく上回った。 <p>教職員、地域住民の肯定的回答がともに100%、保護者の肯定的回答が90.4%と、すべて90%以上であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難を克服し、不安から立ち上がる力（レジリエンス）を育成するため、体育祭や文化祭などの学校行事と部活動で、一人ひとりが有用感を得られる活動の場を設定する。 ・体育祭や文化祭等の学校行事において互いを励まし、認め合う中で生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう支援する。 ・学校行事や部活動において、生徒に目標を立てさせ、スモールステップで小さな成功体験を積み重ねながら大きな目標に向かい努力するよう支援する。
	<p>B8 教職員は、防災教育や実践的な防災訓練等を実施し、安心・安全な環境作りに取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 評価項目B8の保護者の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有事に対する、登下校班を編成することで、生徒一人ひとりの自衛意識を高め、生徒の自己指導能力の育成に努める。 ・地震・火災、不審者に対する避難訓練をより実際に近い形で行うことで、生徒の防災に対する意識を高める。 ・毎月の登下校指導や交通安全教室、自転車点検において、生徒自らが安全に気を付けて生活できるよう継続した指導を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は93.2%であり、数値指標を大きく上回った。 <p>生徒の肯定的回答が90.4%、教職員の肯定的回答が100%と、ともに90%以上であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有事に対する、登下校班を編成することで、生徒一人ひとりの自衛意識を高め、生徒の自己指導能力の育成に努める。 ・地震・火災、不審者に対する避難訓練をより実際に近い形（告知なし訓練等）で行うことで、生徒の防災に対する意識を高める。 ・毎月の登下校指導や交通安全教室、自転車点検において、生徒自らが安全に気を付けて生活できるよう継続した指導を行う。

	<p>B9 学校は、WGSあいさつ運動やボランティア活動等を通して、地域との連携や交流に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 評価項目B9の 地域住民の肯定的回答が 80%以上</p>	<p>OPTAや地域協議会と連携したWGSあいさつ運動を推進し、人間関係の育成に努める。</p> <p>・「リトルクリーン作戦」や塚山古墳清掃のボランティア活動を通して、奉仕の心や地域に積極的に貢献しようとする心を育む。</p> <p>・地域の敬老会に中学生がボランティアとして参加し、地域との交流を深める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・地域住民の肯定的回答は 85.7%であり、数値指標を上回った。</p> <p>教職員の肯定的回答が100%、保護者の肯定的回答が92.7%と、ともに90%以上であったが、生徒の肯定的回答が64.7%にとどまった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>OPTAや地域協議会と連携したWGSあいさつ運動、ビックリーン(地域清掃活動)を推進し、人間関係の育成に努める。</p> <p>・地域の敬老会やフェスタ、防災訓練等に中学生がボランティアとして参加し、地域との交流を深める。</p> <p>・生徒会専門委員会を活用しながら、地域ボランティアへの生徒の積極的な参加を促進する。</p>
	<p>B10 学校は、地域未来会議を通して生徒と地域住民が意見を交換する場を設け、交流を図っている。</p> <p>【数値目標】 評価項目B10の 地域住民の肯定的回答が 80%以上</p>	<p>○地域未来会議を年2回(7月、11月)開催して、中学生と地域協議会委員が意見を交わし、若松原地域の強みを生かした取組について協議し、実践する。</p> <p>・地域未来会議の第1回に計画を立案し、実践した後2回目で評価を行い、次年度の課題を協議することで、交流の継続性を図る。</p> <p>・交流や取組の様子をHPで地域に発信する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・地域住民の肯定的回答は 100%であり、数値指標を大きく上回った。</p> <p>教職員の肯定的回答も 100%であった。生徒の肯定的回答が81%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>○地域未来会議を拡大し、参加メンバーを広げる。</p> <p>○地域未来会議を年2回(6月、12月)開催して、中学生と地域協議会委員が意見を交わし、若松原地域の強みを生かした取組について協議し、実践する。</p> <p>・地域未来会議の第1回に計画を立案し、実践した後2回目で評価を行い、次年度の課題を協議することで、交流の継続性を図る。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

☆アンケートから概ね良好であり、顕著な成果が現れたと考えられること

・数値指標を上回った項目は、以下の26項目であった。

(A1) (A2) (A3) (A4) (A5) (A7) (A8) (A10) (A11) (A12) (A13) (A14) (A15) (A18) (A19) (A20) (B1) (B2) (B3) (B4) (B5) (B6) (B7) (B8) (B9) (B10)

・「教職員・保護者・地域住民・生徒の該当全てで肯定的回答が80%を超えている項目」は以下のように18項目であった。

(A1) (A2) (A3) (A4) (A5) (A6) (A11) (A12) (A13) (A14) (B1) (B2) (B3) (B5) (B6) (B7) (B8) (B10)

・生徒の肯定的回答が3年連続で上昇している項目が、以下の6項目であった。

(A9) (A11) (A17) (A18) (B1) (B6)

・保護者の肯定的回答が3年連続で上昇している項目が、以下の2項目であった。

(A7) (A18)

・地域住民の肯定的回答が、前年度比10ポイント以上上昇した項目が4項目であった。

(A4) (A11) (A18) (B5)

(A4)の肯定的回答が前年比22.2ポイント上昇した。

(A11) の肯定的回答が前年比 16.6 ポイント上昇した。

(A18) の肯定的回答が前年比 18.2 ポイント上昇した。

(B5) の肯定的回答が前年比 12.5 ポイント上昇した。

★アンケートから課題と考えられること

- ・数値指標を下回った項目は、以下の 4 項目であった。(A6) (A9) (A16) (A17)
- ・「評価者の中でいずれかの肯定的回答が 80% 未満の項目」は以下の通り項目あった。
 - (A4) 児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。(児童生徒 75.8%)
 - (A7) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。(地域住民 75.7% 前年比+4.1)
 - (A8) 児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。(児童生徒 76.0% 保護者 73.0% 前年比-0.9)
 - (A9) 児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。(児童生徒 75.4% 教職員 75.0% 前年比+1.3)
 - (A16) 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。(教職員 77.8%)
 - (A18) 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。
(生徒 76.7% 前年比+1.6)
 - (B4) 教職員は「鍛錬タイム(朝学)等」を活用して、授業と一人一人に適した家庭学習と連携した学習指導の充実に取り組んでいる。(児童生徒 70.2% 保護者 77.2%)
- ・前年比-10 ポイント以上の項目が、以下の 3 項目であった。
 - (B4) 教職員は「鍛錬タイム(朝学)等」を活用して、授業と一人一人に適した家庭学習と連携した学習指導の充実に取り組んでいる。(児童生徒 前年比-18.0 教職員前年比-14.1)
 - (A17)学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。(地域住民-11.0)
 - (A19) 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりにつとめている。(地域住民 前年比-10.1)

7 学校関係者評価

- ・学校側の努力の賜物と感謝している。今後も共にご指導の程お願いします。
- ・若松原中学校南側の石塀の破損(交通事故による)の際、いち早く判断されて迂回の指示を出されたこと、素早い対応が見事だった。
- ・あいさつ運動や地域未来塾、地域未来会議で若松原中生とかかわることができて嬉しいし、元気ももらっている。かかわることで繋がりができる。引き続き地域と学校が連携していくことが大切だと思う。
- ・敬老会の折に黄ぶなの折り紙とメッセージを贈呈していただき、地域住民より感謝の声が多く聞かれた。
- ・地域の公園の使い方が悪い。ごみが散乱し、物を動かしたら動かしたまま放置で、自治会で片づけをしている。中学生だけではないが、地域と学校、家庭が連携・協力し、問題解決に当たらなければならない。
- ・校長先生はじめ諸先生方が丁寧な指導・支援を継続的に行っているのだから、今の落ち着いた若松原中学校が顕在しているのだと思う。生徒一人一人の良さを引き出しつつ課題解決に取り組み、成長につなげていくことで、育てたい資質・能力の向上になると思う。
- ・生徒は穏やかに学校生活を送っている。また、あいさつ等もよくできるようになっている。
- ・子ども達は落ち着いて真面目に、元気に学習、運動、学校生活に取り組んでいると思う。悪い部分はほとんど見られない。一層地域連携活動を推進してほしい。
- ・地域未来会議で生徒と地域住民が交流する場合は非常に良い機会である。来年度も、地域未来会議を年に 2 回開催し、参加者を更に広げてほしいと思う。
- ・学校教育目標に基づいて、丁寧な教育がなされている。地域の一員として今後も手伝っていきたい。
- ・地域協議会の委員は、積極的に学校の教育活動や地域の活動に関わることが大切だと思う。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・本年度も WEB による学校評価で、保護者(43.9%)と地域住民(35%)からの回答が少なかった。
- ・今年度は、学校独自のアンケート項目「(B3~B10)」を見直し、特色ある学校づくりの具体的な取組として掲げる 4 つのプロジェクトとの関連から 2 項目ずつ設定変更し、検証することとした。
- ・昨年度から継続している項目については、学校評価委員会の協議により数値目標を「拡充」判断した項目については、目標値を昨年度より高めに設定し、その達成に向け改善を進めてきた。その結果、全 30 項目中、26 項目で数値目標を達成することができ、全体的には良好な結果であったと考える。しかしその反面、数値目標をクリアできなかった項目が 4 項目あった。また、自由記述には、好意的な意見が多数を占める一方で厳しいご意見もあった。期待と応援の表れ

として捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力していきたい。

- ・3年連続で数値が上昇している項目が、生徒では6項目(A9 A11 A17 A18 B1 B6)、教職員では8項目(A2 A3 A11 A12 A13 B2 B5 B6)、保護者で4項目(A7 A18 B3 B6)、地域住民で4項目(A17 A18 B1)あった。学校経営方針に基づき、学校教育目標を具現化するための4つのプロジェクト(学力向上P 人間力向上P 心体力向上P つながる力(感謝の心)P)の具体的な取組を組織的に、協力的に推進してきた成果と考える。
- ・「(A16)勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」項目に関しては、部活動の時間の見直しや通知表の改訂、会議の持ち方の工夫、朝の打合せ削減等に取り組む、成果をあげた反面、数値は前年比-3.8%と伸び悩んでいる。業務改善や働き方改革の本質を確認し、教職員一人一人の意識改革を図っていく必要がある。
- ・「(B4)教職員は「鍛錬タイム(朝学)等」を活用して、授業と一人一人に適した家庭学習と連携した学習指導の充実に取り組んでいる」項目では、家庭学習の在り方を全職員挙げて検討し、授業と家庭学習をつないで学習内容の定着を図り、学力向上を一層推進していく必要があると考える。
- 「(A21)学校は、『小中一貫・地域学校園』の取り組みを行っている。」項目では、組織や計画を見直し、9年間の連続した学びの充実、学力向上に重点をあて、教科指導の充実に向けた小中連携の協議を深めることができた。また、生徒会を中心に行っているWGSあいさつ運動での交流を促進することができた。小中一貫教育で実践している活動の宣伝、PR、啓発を推進し、積極的に情報発信していく。
- ・「(A19)学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」項目では、協力体制が強固であったため、「チーム若松原中」の組織力を高め、全職員で教育活動の効果を高めることができた。
- 「(A22)(A23)学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」項目は、昨年度から開催している地域未来会議を2回計画し、地域住民と交流を深めつつ、意見交換→検証ができた。また、学校にあるバラ園清掃作業では、学校と地域協議会、PTAが連携、協力して活動することができた。来年度は地域未来会議を拡充し、多くの生徒、地域協議会委員、PTAが関わるようもち方を工夫したい。
- ・学校全体としてこれまで以上に諸活動に誠意をもって取り組むと同時に、さくら連絡網やホームページ、学校だより等を活用して、より一層、学校の取組や現状を保護者のみならず地域にも発信し、協力と理解を得る努力を続けていく。